

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301195		
法人名	株式会社 アイリスケアサービス		
事業所名	くつろぎ保養館		
所在地	〒021-0802 青森県八戸市小中野四丁目3-45		
自己評価作成日	平成30年10月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・虐待防止や身体拘束廃止を含む研修を多く実施し、自己研鑽に努めている。                  ・いつまでも美味しく食べて頂くために、口腔ケアを大切にしている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月14日		

<p>理念はケアの基本であることを大事にし、毎日の生活は利用者のペースを尊重し、その時々のおもいに寄り添えるよう、言動や行動を十分に理解し、穏やかに過ごすことができるようにしている。理念を常に振り返りながら、職員間には連絡、報告、相談を密に行い、安心して生活ができるよう日々取り組まれているグループホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示して、ケアの際の判断基準としながら実践につながるよう努めている。	理念は常に利用者のケアの基本であることを職員間で認識して共有し合い、日々のケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、敬老会などに参加している。また、運営推進会議に町内会の役員に参加していただいている。	町内会に加入し、地域の情報と協力を得ながら敬老会や祭りへ参加をして交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の研修事項に取り上げるなどして認知症の理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営状況などを常に報告した、参加している町内会やご家族の方々との話し合いのときに頂いた意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	2ヶ月に一度開催され、地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者が参加し、グループホームの状況報告や取り組み等具体的な内容について話し合い、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回の集団指導に参加したり、メールで様々なやり取りも行いながら、協力関係の構築を図っている。	運営推進会議以外でも、運営に関することや身寄りのない方の支援について相談をもちかけたり、現場の実情等を伝え取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止研修を、年に2回実施し身体拘束の具体的な行為などについて理解を深めている。また、「身体拘束廃止適正化対策委員会」を設置し3ヵ月に1回以上の会議を開催し、内容を全職員に周知している。	年2回身体拘束の勉強会を行っている。利用者の抱えるリスクに対し正しい知識を持っている。外出傾向のある方でも見守りで対応し、日々の関わりに対しても職員間で振り返り、身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修を年3回は実施し、法律や具体的な行為について学ぶと共に、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度について、スタッフ会議などで学ぶ機会を持ち、必要ときには活用につながるよう支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や介護保険の改定時には十分な説明を行い、利用者やご家族の理解を得られるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時などに要望やご意見を伺っている。また、利用者様には、随時、意見や要望を伺うようにし、運営に反映するように努めている。	利用者からは日々のケアで意向を把握している。日頃の面会時には気軽に話し合える雰囲気作りに努め、意見の吸い上げを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や朝夕の申し送り時に、職員の意見や提案を聴くようにし、それを反映させるように努めている。また、それ以外にも職員が自発的に意見や提案を伝えてくれる。必要時には代表者にも伝えている。	毎日の申し送りや会議の中で意見や提案がされており、利用者の日々の生活に反映されている。また、日頃から意見を出しやすい環境であり、職員が管理者に要望等を伝え、必要に応じて管理者は運営者に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業意欲をそぐことがないように、可能な限り、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の様々な研修に参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属している。協会が主催する研修等に参加することにより同業者と交流する機会を確保し、サービスの質を向上させられるよう図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の話や思いを聴くように努めている。また入居後も、随時、思いに耳を傾けるようにし、信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時に、ご家族の話をお聴くことにより、信頼関係を構築できるよう努めている。また、面会時などを利用して、随時、ご家族の思いに耳を傾けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始段階にご本人やご家族と話し合うことにより、必要なサービスや支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の残存能力も視野に入れ、必要なところを支援しながら、ご本人らしい生活を職員と一緒に作っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活を支えるために、御家族にもできる範囲で協力して頂き、ご本人との絆が途切れないように図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の生活歴を理解し、これまで築いてきた関係が途切れないよう面会や連絡の支援に努めている。	家族の協力を得ながら、一緒にカラオケに出掛けたり馴染みの関係が途切れないよう、知人等の面会を自由に受け入れ、利用者一人ひとりの言動を大切にしている。疎遠の人もいるが訴えに応じて電話対応の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりを持ちたくないという利用者もいるが、適切な交流ができるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移動しても、必要時はフォローしたり相談にのるなど支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、御本人の暮らしへの思いを伺い、意向に沿うよう努めている。また、入居後も御本人のニーズの把握に努めている。	日々の関わりの中での言動や表情の真意を推し測り、日々の状況を記録し意向の把握に努めている。毎月カンファレンスを行うことで職員間で情報を共有し合い、生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人や御家族から生活歴やこれまでのサービス利用の経過を伺っている。困難な場合は記録などから出来る限り把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの状態の情報を、職員同士で情報交換しながら、利用者様の詳細な現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当の職員だけではなく、他の職員からも意見をもらいながら、ご本人やご家族と話し合い、出来るだけ現状に沿った介護計画を作成出来るように努めている。	日常的に行われている意見交換や月1回のカンファレンスを通して議題や改善点の話し合いを行っている。計画に基づく家族の意向を踏まえ個々の状態変化に応じた計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ多くの情報を介護記録に記載するように努め、職員間で情報共有することによりケアの実践や介護計画の見直しができるように図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設での一連のサービス以外に、その時々に応じたニーズに対応し柔軟な支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ多くの地域資源を把握するように努め、ご本人が安全で豊かな暮らしが出来るよう図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に応じて、かかりつけ医の定期受診に対応している。かかりつけ医以外の受診もご家族と連携しながら支援に努めている。	かかりつけ医の受診が出来ている。利用者の健康状態を把握し、主治医からの指示や相談も気軽に受けられるよう対応が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している看護職員はいないが、協力病院の看護師に定期的に状態報告をしたり、異常時にも報告して適切な受診が出来るように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院前の状況や治療に関する情報を、病院関係者と共有できるように図っている。また、退院後についても相談にのるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っており、その後も状態の変化があった時等に話し合いを行い、ご本人やご家族が納得のいく終末期を迎えられるように図っている。	見学の時点でグループホームの方針を伝え、契約時は重度化や終末期について、本人、家族へ説明し、話し合いの場を設けて方向性や希望を確認している。状況が変化した場合は、医療機関、家族、職員で話し合い意思統一を図り支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時におけるマニュアルを作成し、職員に周知している。また、職員全員が救命救急講習を定期的に通講し、実践力を身に付けられるよう図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、定期消防訓練を日中や夜間と想定を変えて避難方法を身につけられるよう図っている。また、災害時の避難訓練を半年毎に実施している。	災害時のマニュアルや緊急時の連絡体制の整備がされている。また、毎月1回避難訓練を実施し、車イスの方、誘導を拒む利用者の誘導方法を模索しながら職員全体が緊急時に備えた避難方法を身につけるよう取り組まれている。町内会との協力体制は、運営推進会議の中でもお願いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者様は人生の先輩である。」と、職員全員が認識し、親しい仲にも礼儀を重んじた言葉掛けや対応をしている。	研修会や日々の関わりに関しても職員間で振り返り、利用者の尊厳に努めている。また、介助時等は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その日に着たい衣類や買物の希望などご本人が決定出来るように図っている。また、ご本人が思いを表出しやすいように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や服薬、レクの時間など大まかなスケジュールはあるが、ご本人の希望に沿った過ごし方をさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を購入するときは、なるべくご本人に選んでもらうようにしている。また、女性利用者様には希望に応じてネイルをするなど、「おしゃれをする気持ち」を支援するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	男性利用者が多く、また、年代のせい家事に類するものは手伝おうとしない。好みの具材や献立を準備することで、食事を楽しんでいただけるように努めている。	利用者個々の要望、嗜好に合わせ調理や工夫がされている。また、食事中は、さりげない声掛けやサポートがなされている。また、食器の片付け、テーブル拭き等、出来る事は利用者の言動に任せ参加されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量が各利用者様により異なり、また、好みも違うため、特に水分の種類に関してはコーヒー、ジュース、お茶など好みに応じた物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアがきちんと出来るように職員が支援をしている。また、月に1回、歯科衛生士に来所してもらい、口腔衛生に関する指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の各々の状況に応じて、リハパンやポータブルトイレを使用しながら、排泄の自立を継続できるように支援をしている。	個々の排泄パターンの把握に努め、レベルに応じた排泄用品を活用し、さりげない声かけでサポートしながら、自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になると精神的に不安定になることがあるため排便コントロールには配慮している。水分をこまめに取ってもらったり、水分摂取量が少ない方には、水分の種類を変えたりゼリーにする等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は決められているが、入る時間帯等は利用者様の希望に沿うようにしている。また、お湯の温度やあかすりにも各利用者様の希望に沿えるよう図っている。	基本的に週2回の入浴となっているが一人ひとりの希望を確認し、くつろいで入浴して頂けるよう職員体制に配慮がなされている。また、その日の利用者の状態をみて無理せずいつでも対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安眠や休息が出来るように環境整備に努めている。朝は各利用者様の起床時間がまちまちなため、早い時間に起床した利用者様にはコーヒーを提供したり、軽作業をして頂いて時間調整を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の「お薬情報」を管理して、服用している薬の用法、用量、副作用を理解するよう努めている。また、症状の変化にも注意し、変化があった場合は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや軽作業、散歩を行い気分転換が出来るよう図っている。また、行事を企画する際は利用者様に楽しんでもらえるようなものになるよう、配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各季節毎の買物や散歩などの外出が出来るよう努めている。また、ご家族の協力を得てお盆や正月に自宅を過ごす利用者もいる。御本人とご家族の意向に沿った外出支援が出来るよう努めている。	利用者の希望に添って近くのスーパーや大型ショッピングセンターに出掛けており、気分転換や五感の刺激につながっている。また、家族の協力を得て自宅への外出もされている方もおり、本人の意欲の維持にもつながっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理能力がある方には管理して頂き、嗜好品等の買物代行や季節の買物のときに使えるように支援をしている。管理能力が不十分な方のお金は職員が管理しているが、使う楽しみを持ってもらえるよう支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかけたい。」と要望がある場合、必ず対応している。手紙のやり取りについては、現在は希望される利用者がいないが要望があれば支援をしていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては、温度や臭い、過剰な音や光など、利用者様が不快に思うようなものがないように清掃や環境整備に努めている。	ユニット毎に、それぞれ利用者に合わせた工夫をされており、一人ひとりが思い思いにテレビを見たり、くつろいでいる。また、季節を感じられるよう飾り物、利用者の作品等が飾られ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子をいくつか配置していて、そこで一人で過ごされたり、他の利用者様と話すなどされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人から好みを伺い、それに沿ったものや要望のあったものを置いて気持ちよく過ごしていただけるように努めている。	ベッドとチェストは準備がされているが、馴染みの物を傍らに置くなどで、本人の力が活かせるよう、また、居心地よく生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力に応じて、自立した生活を継続できるように図っている。常夜灯や手すりを設置して、夜間の安全な移動が出来るようにしている。		